

1. 研究のテーマ

当院こころの相談科に通院する軽度認知障害患者が有する認知症リスク要因について

2. 研究の背景これまでの研究の概要

厚生労働省は 2024 年 5 月時点で認知症患者が 700 万人、2050 年には 586 万人になると公表した。2022 年時点では認知症患者が 797 万人と推計されていた。この減少の理由には、生活習慣病管理の改善などが影響している可能性があるとの指摘もある。

国東市では、高齢化率が 43.3%であり、国の高齢化率 29.3%を上回っている。現在、認知症を治癒する方法はなく、国東市の認知症患者数の増加を抑制するためには、認知症への移行回避は喫緊の課題である。そのためには、認知症移行の可能性の高い、軽度認知障害（以下 MCI）患者が有する認知症リスク要因を把握し、MCI 患者の健康管理に対する関心を高める必要がある。

Lancet 国際委員会は、認知症の 45%を遅らせること、軽減出来る可能性がある 14 項目の認知症リスク要因について最新版を報告した。当院のこころの相談科（以下当科）は、国東市で唯一の無床非常勤精神科であり、MCI の診断が可能な場所である。そのため、当科の MCI 患者は、外来通院のみでの健康管理を求められる。また、国東市内では、当科以外で MCI 患者の現状を把握することは難しい。よって、当科で MCI 患者が有する認知症リスク要因を明らかにし健康管理に活用することは、今後の国東市の認知症予防に寄与出来ると考える。

3. 研究の目的

当科に通院する MCI 患者が有する認知症リスク要因保有状況について明らかにする

4. 研究の方法

対象：2022～2025 年度に当科通院歴のある患者

期間：2026 年 4 月 24 日～2026 年 12 月 31 日

研究方法：調査研究

調査内容及び調査項目：2022～2025 年度の MCI 患者数の比較

2025 年度に MCI で当科に通院した患者の診療録より、性別、年齢、Lancet の認知症リスク要因 14 項目、について調査する

分析方法：多要因分散分析

倫理的配慮：収集したデータは個人が特定されないよう匿名化し、ファイルは院内所定のフォルダのみに保存する。また本研究の目的以外には使用せず、研究終了後は適切に廃棄する。

5. 参考文献

Prof Gill Livingston MD, Dementia prevention intervention, and care:
2020 report of the Lancet Commission THE LANCET COMMISSIONS volume 396 Issue10248
P413-446 August 08

6. 研究責任者 外来 師長 宮永 みゆき